女性管理職が語る

# 未熟でも来た船には乗ろう

## 日本HP コンシューマー事業本部 本部長 沼田 綾子氏

**ぬまた・あやこ** 2001年、コンパックコンピュータ（現日本HP）入社。Eコマースやマーケティングの部署を経て16年にコンシューマーPC製品部へ異動。17年5月から現職。

子育てしながら管理職になり3年がたちます。日本HPの前身であるコンパックコンピュータに入社し、Eコマース（電子商取引）、店頭のマーケティング業務を経て、現在は個人向けパソコンの製品部マネージャーをしています。次々と新しいトレンドが出てくる業界ですが、仕事も家庭もチームワークに支えられ、なんとか乗り切っています。

2回の出産、育休を経験しました。子どもが小さい頃はそれこそ仕事を続けていくだけで精いっぱい。ワーキングマザーならみなさん経験されることだと思いますが、保育園からの呼び出しにおびえながら綱渡りの日々でした。特に子どもの体調不良が続き、夜中に救急に駆け込むときなどは、何度もくじけそうになり、まずは目の前にある仕事を一生懸命やろうという気持ちだけで仕事を続けていました。

ターニングポイントになったのは、上司に管理職の仕事を打診されたときです。数年後に子供の中学受験を控えていました。今後の迷いもあり、会社が参画している異業種合同の女性向けリーダーシップ研修に参加したところ、他社の女性管理職の方の「自信がなくても来た船には乗ったほうがいい」「失敗しても選んだ方が悪いんだから」の言葉にふっと肩の力が抜けました。

さらに家族の後押しもあり、上司には「私でよければ、ぜひやらせてください」と答えました。同時に、仕事と家庭を両立する働き方について相談しました。「わかった、沼田さんを一人前のマネージャーにするために最大限サポートする」という言葉に、私以上に上司の覚悟を感じ、本当にありがたかったです。

私が飛び乗った船は小舟ではなくモーターボートだとすぐに気付きました。厳しい指導やプレッシャーに悩んだ時期もありましたが、最初にマネージャーとしてのイロハを学べたことは貴重な財産になりました。

女性のキャリア育成はタイミングがとても難しいと感じます。子どもをいつ生み、いつからいつまで育休を取りと綿密に計画してもすべてがプラン通りにはなりません。

ただ、どんなタイミングでもチャンスが来ることはあり、やりたい気持ちがあれば、自分の未熟さや自信のなさには一旦目をつぶり、勇気を出して踏み出すことが大事だと思います。逆に言えば、万事が完璧に整った上でのキャリアアップはなかなかないのではないのかと感じています。

キャリアへの考えや働き方は人それぞれです。私は上司やチームメンバー、家族の支えもあって仕事を続けていられますが、育児や介護、ご家族の状況によっても望ましい働き方は変わってくると思います。

私のチームにもさまざまな状況のメンバーがいます。キャリアの方向性にも変化があるので、3カ月に一度は目指す働き方とキャリアについて聞き、それが実現できるような業務分担の変更やアドバイスをするようにしています。

多様性の時代だからこそ、相手を尊重しつつ、より深く考えられるようなヒントを与え、具体的なサポートをする。その点は子育てもマネージャーの仕事も共通していると感じています。